



Title	春曙文庫蔵源氏物語断簡（帚木・藤裏葉・橋姫・宿木・手習） 校異一覽
Author(s)	飯田, 実花; 川渕, 紗佳
Citation	詞林. 2024, 75, p. 31-60
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95127
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

春曙文庫蔵源氏物語断簡

(帚木・藤裏葉・橋姫・宿木・手習) 校異一覧

飯田実花・川渕紗佳

次に掲げる校異は、加藤洋介『河内本源氏物語校異集成』

(風間書房・二〇〇二)と同様の作業を、春曙文庫蔵の源氏物語断簡(「相愛大学 相愛女子短期大学 図書館蔵 春曙文庫目録(和装本編)」の春一五七)を対象として行ったものである。当該断簡の詳細については前号「春曙文庫蔵源氏物語断簡(帚木・藤裏葉・橋姫・宿木・手習) 解題と翻刻」を参照されたい。

当該断簡については、柿谷雄三氏の翻刻「春曙文庫蔵源氏物語(別本) ふちのうらば翻刻」『相愛国文』第九号、一九九六年三月) および「春曙文庫蔵源氏物語断簡(別本) はしひめ翻刻(一)」「相愛国文」第十号、一九九七年三月)において池田亀鑑『源氏物語大成』(中央公論社・一九五三・一九五四)本文との校異が示されているが、『河内本源氏物語校異集成』や加藤洋介「源氏物語校異集成(稿)」(https://www2.kansai-u.ac.jp/ok_matsu/ 二〇一四年二月十四日閲覧)との対照の便を考え、すべての巻について改めて掲出し

た。

校異の掲出に際して、使用記号については加藤氏の方針をそのまま踏襲した。ただし、必要に応じて掲出箇所を改めた場合がある。

帚木

00 68 06	にそふしーてね
00 68 06	いづくにそーいとこにそ
00 68 06	とをきーとおかき
00 68 06	ものおそろしとー物むつかしきひと
00 68 07	いらへす也ーいとふなり
00 68 07	ゆにーなんゆき
00 68 07	おりてーをりて
00 68 08	た、いまーた、いまなん
00 68 08	まいらむとーまうのほらんと
00 68 08	侍とーはへりつと

00 68 13	00 68 13	00 68 13	00 68 12	00 68 12	00 68 12	00 68 12	00 68 11	00 68 11	00 68 11	00 68 11	00 68 11	00 68 10	00 68 10	00 68 10	00 68 09	00 68 09	00 68 09	00 68 08	00 68 08	00 68 08	
の給を―いふを	なん―ナシ	中将―いとしのひて中将	り	もとめつる人とおもへり―よひつる人とおもひけ	をしやるまで―おしやり給におんなはたゝ、	きぬ―きぬを	ふしたり―ふしたりひはほのくらきに	たゝひとり―ひとり	いり―より	所―ほと	けはひしつる―けはゐする	給れは―給て	なかを―を	ゝ「ヲ」きたれは―をきて	ものともを―物を	からひつたつ―からうつたへ	には火はほのくらきにみ給へは―さして	はさゝさりけり―かさゝさりけり	ひきあけ給へれは―ひきみれは	かけかねを―かけかねおはなちて	けはひ―けはる
00 69 07	00 69 07	00 69 07	00 69 06	00 69 06	00 69 05		00 69 04	00 69 04	00 69 04	00 69 04	00 69 04	00 69 03	00 69 03	00 69 02	00 69 02	00 69 01	00 69 01	00 68 14	00 68 14	00 68 13	
い給めるかな	思はずにもおほめい給かな―おもはずにもおほめ	しるへ―しるへなる	たかうへくも―たかうへうも	をかしとみ給て―おかしうおほさる	心くるしく―こし	いふも―いふもいふも	とゝおもへはあさましく―もはへらすなと	こゝに―こゝにはさへき	ともえのゝしらす心ちはたわひしくあるましきこ	はしたなく―はしたなうあさましよう	けはひ―けはゐ	あらたつましき―あらたゝすましき	の給ひて―て	あさくは―あさうは	なん―ナシ	しらせむ―しらせん	ほとゝみ給らん―とおほさんも	たてす―きこえず	をとにも―おとも	きぬのさはりて―そてのさはりて	やとおひゆれと―やゝとおひゆれは

00 69 13	00 69 13	00 69 12	00 69 12	00 69 12	00 69 11	00 69 11	00 69 11	00 69 11	00 69 10	00 69 10	00 69 10	00 69 10	00 69 09	00 69 09	00 69 09	00 69 09	00 69 08	00 69 08	00 69 08	00 69 08		
すきかましきさまにはよに――すきかましうは	おもふ事――おもふことみえて	すこしきこゆへきぞ――すこしきこゆへき	ちいさやかなれは――さ、やかなれは	さうしのもと――さうしのうち	いて給――いれ給	そもとめつる――あやしくそもちよりたれとめつる	たつ――めく	人――物	きあひたる――きたるきたる	やゝとの給に――やゝとのひに	さくりよりたるにそいみしく――たちよりたれは	にほひ――にほゐ	みちて――きて	くゆり――ナシ	するに――すれは	あさましう――あさましや	おもひまとはるれと――おもひさわかるれと	きこえん――きこゆへき	かたなし――かたもなし	あららかに――あらめらかに	それたに――たれたに	しらむ――しらん
00 70 13	00 69 13	00 69 13	00 69 14	00 69 14	00 69 14	00 69 14	00 70 01	00 70 01	00 70 01	00 70 01	00 70 01	00 70 01	00 70 01	00 70 01	00 70 01	00 69 14	00 69 13	00 69 13	00 69 13	00 69 13		
いかゝあらん心も――いとをしるへき見	さはきて――さわきて	とうも――とか	おまし――をまし	いり――ふし	さうしを――さうし	あかつきに――ナシ	ものせよと――おもものそれよと	女は――女	この――きみ心あはせてかゝるとしもやと	ことさへしぬはかり――と	わりなきに――わりなくおもふに	なかるゝまで――なかれぬはかりに	なやましけなり――なやましけにさへみゆ	いとおしけれとれいのいつこよりとうて給ことの	はにかあらむあはれしるはかりなさけくしく――	いとこよりはかりいて給ことにぞあらんとしころ	もすこしつへうあなかななるまにて物を	あさましきに――わか／＼しきこちしはへるは	おほえす――おもふ給へられす	なからも――なからかう	御心はへ御心	ほとも――ほとは

00 70 09	00 70 09	00 70 09	00 70 09	00 70 09	00 70 08	00 70 08	00 70 08	00 70 07	00 70 07	00 70 07	00 70 07	00 70 07	00 70 07	00 70 06	00 70 06	00 70 06	00 70 06	00 70 05	00 70 05	00 70 05	00 70 05	00 70 05	
すき心は―すきかましき心とは	あなかななる―あなかに	き、給ふ―きたまう	をのつから―おのつから	ありける―あにける	したるいと	をしなへたるつらにおもひなし給へるなん―いと	うゐ事そや―うゐことなれは	しらぬ―思ひしらぬ	きはくも―きはくを	けはひ―ナシ	心はつかしき―はつかしけ	いとをし―いとをしう	思ひいりたるさまも―おもへるも	ふかくなさけなく―なさけなさお	をしたち―おしたち	かく―ナシ	きは―きはく	いとかやうなる―いとかやうなる	さらむいと―しらさらん	おもふ給へ―おもふ給へし	あさくは―あさましうと	いか、―いか、わ	00 70 05
00 71 01	00 71 01	00 70 14	00 70 14	00 70 14	00 70 14	00 70 14	00 70 13	00 70 13	00 70 13	00 70 13	00 70 12	00 70 12	00 70 12	00 70 11	00 70 11	00 70 11	00 70 10	00 70 10	00 70 10	00 70 10	00 70 10		
まことに―ふしことに	おるへくも―をくへくも	しゐて―しひて	つよき心を―つよい心を	たをやきたるに―たをやかなるに	人からの―ひとほ上の	もてなしたり―もてなす	おもひて―心つようおもひなして	のみ―ナシ	いふかひなきにて―いふかひなくても	さるかたの―さるかたに	みえたてまつる―みへたてまつる	わひしければ―はつかしければ	事―も	御ありさまの―御けはいの	たくひなき―はつかしけにたくひなき	よろつに―すへくよろつに	まめたちて―まめたちても	心まとひを―ナシ	ことほりなる―いとわりなうことほりなるに	けに―しふ	ならはぬを―ならぬを	00 70 10	

00 71 06	00 71 06	00 71 06	00 71 05	00 71 05	00 71 05	00 71 05	00 71 05	00 71 05	00 71 04	00 71 04	00 71 04	00 71 04	00 71 03	00 71 03	00 71 03	00 71 02	00 71 02	00 71 02	00 71 02	00 71 02	00 71 01	00 71 01	
ありしなからの身―ありしなから	かく―かう	つらきと―つらきこと	おほゝれ給なん―おほされたるけしきなん	やうに―けしきに	おもひしらぬ―しらぬ	おもひ給はめ―おもひない給らめ	契ある―ちきりあり	しもこそ―おこそ	おほえなき―おもむき	ものにしも―物には	かく―かう	うしと―ナシ	なくさめかた―なくさめかたう	くちおしからましと―たさうくしからましと	心くるしくはあれと―あなち心に心くるしうはあらねと	あはれなり―あはれけなり	いふかたなし―いふかひなし	なと―ナシ	あはれなり―あはれけなり	心くるしくはあれと―あなち心に心くるしうはあらねと	あなちなる―あやにくけなる	御心はへ―心さま	心やましくて―心やましうて

00 73 06	00 73 05	00 73 05	00 73 05	00 73 05	00 73 05	00 73 04	00 73 04	00 73 03	00 73 02	00 73 02	00 73 01	00 73 01	00 73 01	00 72 14	00 72 14	00 72 14	00 72 14	00 72 14	00 72 13	00 72 13
もてつけてもありつる中のしなかな―もみえつるになゝこのしなゝなから	おもひやり給ふ―おほしやる	心くるしく―心くるしう	心のうち―ことはまして	かの人―この人	まして―あはれに	とみに―とみに	給ても―おはしても	ことつてやらんよすかたになきをと―ナシ	すこくも―ナシ	えんにも―とのみゑんにも	なに心なき―なに心もなく	あけほの―あとやほ	かけさやかに―かけをさまれる	ひかりおさまれる―かけをさまれる	あめり―、「毛」あへか―「め」	おもへる―おもふつる	はかり―はかりに	御ありさまを身に―みに	みえ―みへ	ほのかに―ほとに

00 73 11	00 73 11	00 73 11	00 73 11	00 73 10	00 73 10	00 73 09	00 73 09	00 73 09	00 73 09	00 73 08	00 73 08	00 73 08	00 73 08	00 73 07	00 73 07		00 73 07	00 73 07	00 73 07	00 73 06	
申も―申にも	のたまひみん―いひはへらん	あね―かのあね	侍なり―はへり	身ちかくつかふ―みにちかうつかふ	みえしを―みへしお	えさせてんや―こゝにゑさせよ	こは―ナシ	中納言―とう中納言	くるしく―くるしきを	いとおしく―ナシ	事の―こと	かきたえて―うちたへて	いと―かの人の	おはします―おはす	大殿―との	ほと―ころ	けり	あはせられけり―あはせられてにしおもてのかう	事は―ことのは、	みあつめたる―みあつむる	くまなく―くまなう
00 74 02	00 74 02	00 74 02	00 74 01	00 74 01	00 74 01	00 74 01	00 74 01	00 74 01	00 73 14	00 73 14	00 73 14	00 73 14	00 73 13	00 73 13	00 73 12	00 73 12	00 73 12	00 73 12	00 73 12	00 73 11	
申す―きこゆ	侍らすと―はへらぬと	にて―にてなむ	たとひ―れい	世の―世	うとくしく―うとくしく	もてはなれて―いともてはなれ	けしうは侍らさるへし―こともなくはへるへし	給へは―たまはすれば	きこえし―きこゆる	よろしく―むたしからず	あはれのことや―あはれのことやは	なんき、給ふる―なんき、たまふすときこゆれば	たかへりとおもひなけきて―あらすと	侍れと―はへれ	をや―おや	はかりそ―こそ	二年―二三ねん	もたる―もたれたる	おとうと―おと、	あそむの―あそこの	むねつふれて―むねつふれ

00 74 07	00 74 07	00 74 07	00 74 06	00 74 06	00 74 05	00 74 05		00 74 05	00 74 05	00 74 04	00 74 04	00 74 04	00 74 03	00 74 03	00 74 03	00 74 02	00 74 02
おさな心に―おさな心ち	おもひのほかなれと―いとおもひかけかたけれと	ほの心うるも―ナシ	とおもふにこまゝとみ、にあて、	よく―よくかたらひたまひて御ふみかき給あやし	れと	うちいてにくしされと―うちいてにく、おほさる	給	はつかしけに―いととはつかしければ	しつまりたれは―ナシ	うちいてにくしされと―うちいてにく、おほさる	給	はつかしけに―いととはつかしければ	しつまりたれは―ナシ	うちいてにくしされと―うちいてにく、おほさる	給	はつかしけに―いととはつかしければ	しつまりたれは―ナシ

00 74 13	00 74 13	00 74 13	00 74 13	00 74 13	00 74 12	00 74 12	00 74 11	00 74 11	00 74 11	00 74 11	00 74 11	00 74 10	00 74 10	00 74 09	00 74 09	00 74 08	00 74 08	00 74 07	00 74 07		
うちゑみて―うちわらひて	のたまへは―いへは	みるへき人もなし―みわくへうもあらず	かゝる―かゝす	こふ―こへは	小君―そのきみ	ふし―うちふし	おもひつゝけて―おもひつゝけ	うこそへりける身を―そさそひたりけるを	心えぬ―心えかたきみの	きりふたかりて―めもきりて	御かきさまも―御かきさまなれとみいれられす	めもをよはぬ―いとめとまりぬへき	ぬる夜―ぬるよ	ころもへにける―ひころ（も）へにける	おほくて―ことおほくて	ひろけたり―ひきひろけたり	おもかくしに―おかくしに	はしたなくて―はつかしうて	いてきぬ―おちぬ	女―おんなむねつふれて	御ふみを―ナシ

00 75 05	00 75 05	00 75 04	00 75 04	00 75 04	00 75 04	00 75 04	00 75 04	00 75 03	00 75 03	00 75 03	00 75 03	00 75 02	00 75 02	00 75 02	00 75 02	00 75 01	00 74 14	00 74 14	00 74 14	00 74 14	00 74 13	
えんし給へは—の給に	猶—やみにき	まぢくらししを—まぢくらして	きのふ—きのふは	君—こきみ	をもてかしつきて—わはくるまにて	この子—こ君	ありけは—よるころなれば	ついそうし—ついせうし	あたらしきものに—よにめてたしと	すき心—すいたる心ち	きのかみ—かのみ	いかてか—いか、	むつかられて—けしきあしければ	なまより給そ—なたまはりそ	いはぬそよき—いはぬものそ	のたまはせしらせてけると—の給きかせける	のこりなく—のこりなう	心やましく—心やましくて	といふに—といふお	いか、さは申さむ—いか、さはきこゑむ	の給はさりしものを—の給はせしを	たかふへくも—たかふへくもあらず

00 75 10	00 75 10	00 75 10	00 75 10	00 75 10	00 75 10	00 75 09	00 75 09	00 75 09	00 75 09	00 75 09	00 75 09	00 75 08	00 75 08	00 75 07	00 75 07	00 75 07	00 75 06	00 75 05	
せさせまことにおやめきてあつかひ給ふ—ナシ	給ふわかみくしけとのにの給ひてさうそくなとも	この子をまつはし給てうちにもゐてまいりなとし	おほす—おもほす	をかし—おかし	おもへる—おもへるも	かな—ナシ	さもや—さも	たのもし人は—をやはたのもしけなれと	みしか、りなんと—みしか、めりなと	わか子にてを—あかこにて	あこ—君	ろてこしつきゑりまうけ給へるそかし	うしろみまうけてかくあなつり給ふなめり—こ、	くひほそしとて—ひほそと	みし—みたてまつりそめし	さきに—さきより	よりは—ともの	たちはへるときこゆれば心のことや	ゐたり—ナシ

00 76 04	00 76 04	00 76 03	00 76 03	00 76 03	00 76 03	00 76 02	00 76 02	00 76 02	00 76 02	00 76 01	00 76 01	00 75 14	00 75 14	00 75 14	00 75 14	00 75 14	00 75 13	00 75 13	00 75 12	00 75 12	
けしきなどのいとおしさもはるけんかたなくしう	しう	心くるしくもこひしくもこひしきよりも心くる	時のまもーおりも	君はききみも	なるへきなどーなるへき身そと	なに、かはーなに、	たてまつりてもーたてまつり	きこえぬにはきこえぬにしも	おもひいてーおもひ	にやはとーにやは	きこえずーきこえず	御いらへもーけはゐも	しからぬ	おもひてー思へはいとすきかましきことのふさは	わか身からーわかみ	事ーひとなりとも	つきなかるへくおもへはーつきなくおほえて	おほえをーありさまをを	とりーナシ	おさなしーはかなし	ありー給へり

10 03 08	10 03 07	10 03 07	10 03 06	10 03 06	10 03 06	10 03 06	10 03 04	10 03 03	10 03 03	10 03 02	10 03 01	10 03 01	藤裏葉		00 76 06	00 76 06	00 76 05	00 76 05	00 76 05	
おかしきーをかしき	おもしろしーをもしろし	御こゑーナシ	つかふまつるかなーつかうまつるものかな	けやけうもーけやけくも	いとーナシ	なつかしくてーなつかしうて	こたかきーこちたき	木すゑとものーこすゑとも	けにーみるに	七日の夕つく夜ー七日の夜ゆふつくよ	すんなかるめれとーすんなかれためれと	色もまさらむー色もますらん			まかうさまにおほしくらす	あらはれんとーあらはれんとは	人のためもいとをしくとおほしわつらふーはとさ	き	からむ所にひんなきー、「ケ」なれはすきくし	給はんもーたまはんにも

10 04 12	10 04 12	10 04 10	10 04 09	10 04 08	10 04 07	10 04 06	10 04 05	10 04 04	10 04 03	10 04 02	10 04 01	10 03 13	10 03 13	10 03 11	10 03 11	10 03 11	10 03 11	10 03 10	10 03 10	10 03 09	10 03 08	10 03 08
ものおほえずと—ものおほえず	つもりも—つもりに	うちはらひて—うちわらひて	あらかき—あし（らい）かき	き、くるし—き、にく、	女いと—をんなきみ	おもむき—おもふき	わさかなと—わさかな、と	かうまでも—かうまで	女は—をむなは	おとこ君—をとこきみ	みちひきつ—道ひきつ	ゆ、しやと—ゆ、しやはとて	いへは—のたまへは	ゑひす、みて—ゑいす、みて	おきな—をきな	御やすみ所—その御やすみところ	おと、朝臣や—をと、あそむや	侍ぬへけれ—はむへりぬへけれと	ほとくしう—ほとくしく	たへかたうて—たえかたく	物おもひ—ものをもひ	みたりかはしき—みたれかはしき

10 05 11	10 05 10	10 05 08	10 05 08	10 05 07	10 05 06	10 05 06	10 05 06	10 05 04	10 05 04	10 05 04	10 05 03	10 05 03	10 05 03	10 05 02	10 05 02	10 05 02	10 05 01	10 04 14	10 04 13	10 04 13	10 04 13	10 04 12
おと、—をと、	右近のそう—うこのそう	給へり—たてまつり給へり	なへてならぬさまにて—なへてならて	みくるしや—いとみくるしや	の給も—みたまふも	かきなられにける—かきなれにける	なれかほなり—なれかほにかき給へるを	きえぬへきも—きこえぬへきにも	たへぬ心—たえぬ心	身のほとを—みのほとかな	おもひしらる、—思しらるし	はりなきや—わりなきや	み給ふそいと—みたまふにそいと、	おと、—をと、の	しろう—しろふ	給はぬを—たまはぬを事はりと	さまの—まゝの	あさるかな—あさいかな	したりかほ—したりかを	おと、—をと、	しらすかほ—しらすかを	ゑひに—ゑい

10 06 10	10 06 09	10 06 09	10 06 09	10 06 07	10 06 06	10 06 06	10 06 06	10 06 06	10 06 05	10 06 05	10 06 04	10 06 03	10 06 03	10 06 02	10 06 01	10 05 14	10 05 14	10 05 14	10 05 13	10 05 12	10 05 12	10 05 11
けり―けふ	ひかりそひて―いといたうひかりそひて	うちまもり―うちまほり	女のすちには―をんなのすちは	ぬけたりける―ぬけたる	御心と―み心となむ	おと、―をと、	いひ出る事あらんや―いひいつる事あらむや	心をこり―心おこり	おいらかに―をいらかに	お、しからず―を、しからず	ところつき給へる―所つきたる	御あはひと―御ゆかりと	このかみはかりと―このかみとそ	おなしかほ―をなしかを	うつしとりたると―うつしたると	みゆるを―みるを	御まへ―をまへ	おと、―をと、	宰相殿は―宰相のきみは	御なをし―なをし	丁子―ちやし	しろきあやの―こ、あやの

10 07 12	10 07 11	10 07 09	10 07 09	10 07 09	10 07 08	10 07 06	10 07 05	10 07 04	10 07 03	10 07 03	10 07 02	10 07 01	10 06 14	10 06 14	10 06 13	10 06 12	10 06 12	10 06 12	10 06 12	10 06 11	10 06 11	
灌仏―くわむ（卯月八日事也）うふつ	御導師―御たうし	はらはへ―わらはへ	いたし―つくろひたし	おほやけさまに―おほやけさまには	心く―さまく	おまへの―をまへの	こせん―御前	あやしう―ナシ	おくしかかなり―をくしかかなり	わか人は―わかき人くは	としころの―ところの	みつも、らむ―みつもらむ	おと、―をと、も	くちおしさ―くちをしさ	のこるましようそ―のこるましよう	御有様―御有さま	事かは―事か	おもひ―思おもひ	給けり―給へり	六条院―六条の院	とまり給て―と、まりたまひて	御前―こせむ

10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 08 07 07 07 07 07 07
 09 09 08 07 05 05 04 03 03 03 02 02 02 01 01 14 14 13
 人数おほくも―人かすあまは
 ことそきたる―事そきたまひたる
 まつりの日の―まつりのひ
 まうて―まて
 御覧すへき―御らむすへきよし
 おはします―をはします
 女房―ひとく
 御まへところ―〔御前所〕
 と、をめより―と、ほめより
 おとろおとろくしき―をとろくしき
 御いきほひ―御いきをい
 宮す所―みやすむ所
 たまへりし―給へりけむ
 時により―時による
 心おこりして―こ、ろをこりして
 なけきおふやう―なけきを、うやう
 人の―人くゝの
 おはするも―をはする
 おもふさまにて―思ままに
 などの―なとは
 おとろへ―をとろへ
 思は、からるれはと―おもひは、か―ら―るれは
 と

10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
 09 09 09 09 09 09 09 09 09 09 08 08 08 08 08 08 08 08
 14 13 10 10 10 10 09 08 07 06 04 14 14 13 13 11 11 10
 御さしきに―御さしきへ
 まいり―ナシ
 給へれは―たまへは
 近衛つかさ―近衛官
 とうの中将―頭中将
 いてたつ所―たつ所
 人くゝは―ひとくゝ
 まいりたまふける―まいりける
 六条院などよりも―六条院よりも
 御とふらひと―御とふらひ
 宰相の中将―宰相中将
 ところさへ―ところさへ
 物さはかし―ものさはかしく
 人やしるらん―ひとやしるらむ
 おもひはなれす―思はなれて
 御まいり―御まいりには
 えそひさふらひ給はし―はそひさふらひ給まし
 かの―この
 そへまし―そえまし
 うへ―うゑ
 つろにあるへき―ついななるへき
 うしろめたきに―うしろめたなきに
 人―ひとくゝ

10 10 09	10 10 09	10 10 09	10 10 08	10 10 08	10 10 08	10 10 08	10 10 07	10 10 07	10 10 07	10 10 07	10 10 06	10 10 05	10 10 05	10 10 04	10 10 03	10 10 03	10 10 03	10 10 02	10 10 01	10 10 01	10 10 01	
まいり―御まいり	心くるしう―こゝろくるしと	なからうる―なからふる	たてまつり給ふ―たてたてまつり給	た、かく―たかく	ためは―御ためは	人わるかるへきを―ひとわるかるへきを	さて車にも―御てくるまなどにも	そひて―ナシ	うへ―うゑ	其よ―そのよ	しふねく―しうねく	み奉る―みたてまつらむ	御をいさき―御をひさき	おとるましく―をとるましう	かなひ侍る―かなふ	うれしく―、「ウ」れしう	いみしく―いみしう	の給ければ―たまひければ	おほしよる―おほしよる事	うしろやすかるへく―うしろやすかるへう	えつとしも―つとしも	ことの心いたる―ナシ

10 11 09	10 11 08	10 11 08	10 11 05	10 11 04	10 11 04	10 11 03	10 11 03	10 11 02	10 11 01	10 11 01	10 11 01	10 10 14	10 10 14	10 10 14	10 10 14	10 10 13	10 10 13	10 10 12	10 10 12	10 10 11	10 10 11	10 10 10
ひゝなの―ひゐなの	くらふるに―くらふる	御有様―御有さま	さまに―さまにて	御けしきを―御けしきをも	けたかう―けたかくこめかしう	むへ―うへ	けはひなと―けはひを	ましくや―ましうや	しられ侍れは―しられ〔侍〕は	おとなひ給―をとなひたまふ	御たいめん―御たいめ	たちかはりて―たちかはり	まかてさせ給―まかてたまひける	うへ―うゑ	すこしてそ―すくしてそ	おとゝ―をとゝ、	おほす―おもほす	ゆつるましう―ゆつるましく	おもひきこえ―みたてまつり	あはれに―ナシ	うへ―うゑ	おとろく―をとろかす

10 11 09	御有様―御有さま	15 20 05	ころ―ナシ	15 20 05	ひさしく―ひさしくも	15 20 05	思ひいてきこえ給ける―おもひいてきこゑたまふ	ける	15 20 06	あり明の月の―ありあけの月	15 20 07	なくて―なくてそ	15 20 07	おはしけり―をはしけり	15 20 08	ゆく―いく	15 20 08	みえぬ―みゑぬ	15 20 09	きほひに―きをひに	15 20 09	おちみたる、―をちみたる、	15 20 09	ちりかゝる―をちかゝる	15 20 10	なとも―なんとも	15 20 11	おかしく―をかしう	15 20 11	おほされけり―おほえたまふ	15 20 12	山おろしに―山をろしに	15 20 12	たえぬこの葉の―たえぬ木すゑの	15 20 12	おとろくも―をとろくも	15 20 13	すいしんの―ゆいしむの	15 20 14	水のなかれ―水なかれ	15 20 14	しのひてと―しのひて	15 20 14	ようひし―ようゐし	15 21 01	御にほひそ―御にほひは
橋姫		15 19 11	きこえ―きこゑ	15 19 11	たまへは―たまえは	15 19 11	れせい院―れんせい院	15 19 12	よりも―よりは	15 19 12	御せうそこ―御せうそく	15 19 12	なと―ナシ	15 19 12	おさく―をさく	15 19 12	きこえ―きこゑ	15 19 13	さひしけなりし―いみしうさひしけなりし	15 19 13	御すみか―御すみかに	15 19 13	おりふしに―をりふしに	15 19 13	とふらい―とふらひ	15 19 14	きこえ―きこゑ	15 19 14	いかめしう―いかめしうて	15 19 14	おかしき―をかしき	15 20 01	まめやかなるさまにも―まめやかにも	15 20 01	すゑ―すえ	15 20 03	みゝかしこましく―みゝかしこましく	15 20 04	おこなひ―をこなひ	15 20 04	給ふ―給ひ					

15 21 10	15 21 09	15 21 09	15 21 09	15 21 09	15 21 08	15 21 08	15 21 08	15 21 08	15 21 07	15 21 07	15 21 07	15 21 06	15 21 06	15 21 05	15 21 05	15 21 04	15 21 04	15 21 04	15 21 03	15 21 02	15 21 01	15 21 01
なにかしーなにし	きこえさせめーきこゑさせめ	御せうそこー御せうそく	おはしますーをはします	しかく／なん／しかく／しなむ	なまかたくなしきーなまかたくなし	おのこーをのこ	ききつけてーき、つけて	御けはひー御けわひ	たえく／たゑく	なまめひたるーなまめきたる	さうのことーさうの事	おもしろしーをもしろし	はちのおともーはちのをと	なれとーならねと	ひわのーひはの	おりーをり	えきかぬそかしーきかぬそかし	なたかきもーなたかきをも	みやの御ことーみこの御きん	家々ーいゑ	おとろくーをとろく	ぬししらぬかとーぬし、らぬかと

15 22 08	15 22 07	15 22 05	15 22 05	15 22 03	15 22 02	15 22 01	15 22 01	15 22 01	15 21 14	15 21 14	15 21 14	15 21 13	15 21 13	15 21 12	15 21 12	15 21 11	15 21 11	15 21 11	15 21 10	15 21 10	15 21 10	15 21 10
き、いつへかめるーきこゑいつめる	ななりーなり	かくさせ給ひーかくさせ給ふ	おはしますーをはします	めてたくーめたく	御けはひーけはひ	よらむーよらぬ	つきなくーこちなく	くまーくまは	しはしすこしーすこしちかく	おりかなーをりかな	御ことのねー御事のね	き、てゆかしくおもふーき、てゆかしうおもふ	人つてにーいとつてに	うちゑみてーうちゑみて	かほーかほを	きこえてーきこゑて	うれへをーうれを	まいりてーまいりきて	あひなしーあいなし	きこえさせむにーきこゑさせんに	程をーほど、	御おこなひー御をこなひ

— 46 —

15 33 05	15 33 04	15 33 04	15 33 04	15 33 03	15 33 03	15 33 03	15 33 02	15 32 14	15 32 14	15 24 07	15 24 07	15 24 07	15 24 07	15 24 07	15 24 07	15 24 06	15 24 06	15 24 05	15 24 05	15 24 05	15 24 04
御心さはかし―御心はけまひ	きこえ―きこゑ	たに―ナシ	おかしかるへけれと―をかしかりけれと	おくまり―をくまり	三の宮の―三宮の	おほして―思して（おもひて）	のたまへるに―の給うへり（けり―り）	なめる―なんめる	み心はえ―こゝろはへ	吹つるを―ふきゝつるを	かうはしく―かうはしう	あやしく―あやしう	いみしく―いみしう	いと―ナシ	たまひつらむ―給ぬらむ	とは―と	みえやしぬらんとは―みゑやしぬらん	きこえさせむ―きこゑさせん	かこと―とも	いたう―いたく	きこえよ―きこゑよ

15 33 12	15 33 11	15 33 11	15 33 11	15 33 11	15 33 10	15 33 10	15 33 10	15 33 09	15 33 09	15 33 09	15 33 08	15 33 08	15 33 07	15 33 07	15 33 07	15 33 06	15 33 06	15 33 06	15 33 06	15 33 05	15 33 05	
いかてか―いかてかは	身に―みにか	むもれたる―うもれたる	いとも―いとむしんに	かく―ナシ	たに―たにそ	御らむすへかめる―御らんすへかんめる	さまゝ―さまゝに	みせ給はさりし―みせ給みせ給はさりし	なとか―何か	ありけんかへりこと―かへりこと有けむ	みて―みいてゝ	おほひたり―おほいたり	おかしと―をかしと	きこえ給ふ―の給いてたる	くはしく―くはしう	あか月の―あ―か月	かたりいてゝ―きこゑいてゝ	ついてにうちの宮の―ついでにうちのみこの	きこえかはし―きこゑかわし	さまゝなる―さまなる	まいり―すひり（まいり―）	おほして―おほひて

15
 34
 06 06 06 05 05 05 04 04 04 04 03 03 03 03 01 01 01 01 14 14 13 13
 13
 いとよく―いとよくて
 よに―よにて
 うちかくろへつ、―かくろえ
 女の―女
 もの思はしき―ものをほはしく
 めひたる―めいたる
 くまなどにをのつから―くまなどにをのつから
 侍へかめり―はへるへかめり
 きこえさする―きこゑさす
 侍て―て
 侍らさりけれ―さりつれ
 月影―月つきかけ
 みをとりせすは―みを―と―りせすは
 まをならんはや―まをならむ―む―はや
 けはひ―けはい
 はた―は
 ほと、は―程と
 おほえ―思給へ
 きこえ―きこゑ
 たまふ―給えは
 心うつるましき―心ゆるさぬ
 おろかならしと―をろかならす
 おほす―をほす

15
 35 35 35 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34 34
 03 02 01 14 14 13 12 11 11 11 10 10 09 09 09 09 08 08 08 08 08 08
 御身―身
 ほとの一程
 いはしき―いとわしき
 おほしたれは―おほいたれは
 おかしくて―へをかしうて
 よしなくそ―うなきてそ
 心と、めしと―と、めしと
 思ふ給る―思給ふる
 やうある身―やある身
 つ、ましう―つ、ましきなり
 侍を―もし
 おもひにたかふへき―おほきにたかふへき
 ことなむ侍へきと―事と
 きこえ―きこゑ
 しれひの―しれいの
 おとろおとろしき―をとろくしき
 うちおとろかれて―をとろかされて
 おかしと―をかしと
 あたりも―あたりにも
 五六日のほとにうちへまうて―五六日程にうちへ
 まうて
 あらそふ心にて―あらそふ身にて
 そきすて―そき、すて

15 36 01	15 36 01	15 35 14	15 35 13	15 35 13	15 35 12	15 35 12	15 35 12	15 35 11	15 35 11	15 35 11	15 35 10	15 35 09	15 35 08	15 35 07	15 35 06	15 35 06	15 35 05	15 35 05	15 35 04	15 35 03	15 35 03	
そ、のかし—そ、ろ—のかし	へかりけるとて—へかんめるけりとて	なりたりや—なりたりや	とりよせて—とりよせ	なむと—なと	きこえ—申	なと—なんと	いふかしう—ゆかしく	いと—ナシ	中／＼に—なか／＼	うけたまはりし—き、給し	さきのたひの—さきのたひ	琴のねの—きんねの	物おそろしく—ものをそろしく	河かせの—かはか風の	おろして—をろして	たまへる—給つる	おほとなふら—御とのあふら	しなしたまふ—しなし給に	おかしう—をかしう	ことさらひ—ことさらに	給—たまかひて	いと—ナシ

15 36 11	15 36 10	15 36 10	15 36 09	15 36 09	15 36 08	15 36 08	15 36 08	15 36 08	15 36 08	15 36 07	15 36 07	15 36 07	15 36 07	15 36 07	15 36 06	15 36 05	15 36 03		15 36 02	15 36 02	15 36 02	15 36 02
きこえたまへと—きこえたまへと	はうし—ひやうし	ようにす—よふにす	へかめるは—へかんめるを	なりにけり—なりけり	なと—なんと	心と、めて—み、とめて	侍れと—はんへられと	ね—ナシ	さうの—さうのこと	おほえなくており／＼—をほえなくてをり／＼	やめたまひつ—やめたまひぬ	ひとつばかり—人はかり	えありて—えあひて	かたへは—かたえは	みねの—みね	おもふたまへしか—おもひしか	からにやとこそ		御ことのひ、きからにやとこそ—御ことのひ、き	思ふたまへられさりけり—思給へられさりけり	おなし—をなし	侍し—給し

15
 37 37 37 37 37 37 37 37 37 37 37 36 36 36 36 36 36 36 36 36 36
 08 08 07 07 07 06 05 04 04 03 02 14 14 13 13 13 13 12 12 11
 おもひよらさりし―思よらさりしは
 ひとりことを―人ことを
 ならむと―ならむ
 き、―きい
 そ、のかし―そ、のかしきこゑ
 きこえずさひて―きこゑささひて
 やみ給ひぬめれは―やみ給ぬれは
 くちおしう―くちをしう
 かくあやしう―いあやしう
 ともの―ともに
 おほひたり―おほいたり
 しらせし―しられし
 のこりすくなさに―のこりなさに
 ゆくすゑ―ゆくすへ
 きはの―きわの
 給へは―たまえは
 御うしろみたち―給うしろみ
 おほしめされん―おほしきこゑさせん
 きこえさせてむ―きこゑさせてん
 たかへ―たかえ
 なむなと―なんと
 おほしの給―おほしの給
 あか月かたの―あか月かたに

15
 38 38 38 38 38 38 38 38 38 38 37 37 37 37 37 37 37 37 37 37 37
 10 09 09 08 07 06 05 05 04 04 02 13 13 12 11 11 10 09 08
 宮の御おこなひしたまふほとにかのおい人めしい
 て、―宮の御をこなひしたまふほとにかのをい人
 めしいて、
 あひたまへり―あい給へり
 年も―とは
 古権大納言の君の―こ権大納言君
 ものを―ものふ
 きこえいて、―きこゑいて、
 きかむたに―きかたにも
 こと、もを―事を
 さても―さて
 猶―なん
 かくいひつたふる―かくつたふる
 き、をよはさりけると―き、をよはすなんありけ
 ると
 弁と―弁とを
 はなちて―はなれて
 もの―も
 つきたてまつりて―つきて
 けしきをも―けしきを
 たまさかの―たまさかに
 かたはら―かたわら
 くはしく―くはしう

15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15
 39 39 39 39 39 39 39 39 39 39 39 38 38 38 38 38 38 38
 07 07 07 06 04 04 03 03 02 02 02 01 01 01 01 01 01 01
 きこえさせず―きこゑさせず
 のたまひ―のたひ
 身には―身に
 おもふ給へわたりつ―思たまへわたり
 思ふたまへつる―おもひたへつる
 おはしましけり―をはしけり
 侍り―はんへり
 侍なむ―侍なり
 うちゝる―をちゝる
 うしろめたく―うしろめたなく
 おもふたまふれと―思給れとは
 ほのめかせ―ほのめせ
 まちいて―まちいて給し
 たてまつりてしは―たてまつりしかは
 たのもしく―たのもしう
 おりもや―をりもや
 侍へる―はりつる
 侍らし―はへらすし
 こまかに―いとこまやかに
 いとゝゝいと
 ことを―事
 おもひたまへし―思給し
 心をつけたりけるか―心つけたりけるか

15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15
 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 39 39 39 39 39 39 39 39
 06 06 05 05 04 04 04 04 03 02 14 14 13 12 11 11 11 08
 人を―人とか
 京のことさへ―その事さへ
 あまりにて―あまりになりて
 まいりかよふ―まひりかよふ
 世に―いとよに
 れせい院―れんせい院の
 殿―ナシ
 わたりにて―あたりに
 くち木に―くちきと
 なりにて―なりて
 そのかみの―そのかみ
 人は―人
 れひの―れいの
 あらぬ―あらぬ心ちしけるを
 きこえん―きこゑ
 しゝうといひし人は―侍らすとそいひし人は
 おほゆるは―おほゆるを
 程にや―ほとにや有けむ
 むねを―むね
 きくかゝる―かゝる
 おもき―をもき
 おしまきあわせたる―をしまきあはせたる
 ほか―ほんこ

17 64 07	17 64 06	17 64 05	17 64 04	17 64 03	宿木	15 41 01	15 41 01	15 40 14	15 40 14	15 40 13	15 40 12	15 40 11	15 40 11	15 40 10	15 40 09	15 40 09	15 40 09	15 40 08	15 40 08	15 40 07		
ひとりこち給―ひとり給	おほしくて―おほして	すこし―ナシ	みわたして―みいたして	ふみわけゝる―ふみわけける		女一の宮―女一宮	院の―院に	けふは―けふ	こはいひ―こはい、	たまふ―給に	かへすゝもちらさぬ―かへすゝもゝらさぬ	くるしく―くるしう	かくいたまいつ―かくいたまひつ	なん―ナシ	まいらせむ―まひらせむ	ついでに―ついても	たまはせたりしかは―たまはせ給たりしかは	とりあつめて―とりあつめ	のたまはせて―のたまひはせて	あらず―ナシ	ぬひいたる―ぬひいたる	
17 65 13	17 65 13	17 65 13	17 65 13	17 65 11	17 65 10	17 65 10	17 65 09	17 65 08	17 65 07	17 65 06	17 65 06	17 65 05	17 65 05	17 65 03	17 65 03	17 64 14	17 64 13	17 64 12	17 64 12	17 64 10	17 64 09	
まねく―まねくか	さしいて―さしいて、	てを―ナシ	ことにて―うゝとき	我―我か	なんと―なと	思ひ侍を―思侍しを	思ひ給へし―思給し	さやにて―さやうにて	ほかさまにむき給へり―ほかさまへみむき給へり	おかし―をかし	うちゑんして―うちえんして	あなかちに―あなかに	さや―さもや	なとそ―なとそ	ものしはへらめ―ものし給侍らめ	侍つる―侍つるほどの	み給―み給	かくさんやは―かくすへきことかは	くるしく―くるしう	もこそ―もそ	いさゝかの―いさゝか	かける―きける

17 67 01	17 66 14	17 66 14	17 66 13	17 66 13	17 66 12	17 66 11	17 66 10	17 66 10	17 66 09	17 66 09	17 66 09	17 66 08	17 66 05	17 66 05	17 66 05	17 66 03	17 66 03	17 66 03	17 66 02	17 66 01	17 66 01	17 65 14
つたへたらむ―つたへかたん	さしをき―をしやり	をしへけるは―をしへたるは	花―このはな	すし給て―すんし給て	とりわきておらせ―とりわきをらせ	なか――またいと	よく―よくも	うたかはしきか―うたかはしきかた	かゝるにこそ―かゝるそは	をしはかるれと―をしはかるる	御心―心	はつかしければ―はつかしき〔け〕れは	みき丁―御几帳	ちいさき―ちゐさき	しはてたまはす―し〔はて〕給はす	ゐ給へり―給へり	ひわを―ひわ	なおし―なをし	もの思ふらし―物をおもふと	あはれなる比なりかし―あはれなりかし	猶―なを	玉のを―たまを

17 67 12	17 67 12	17 67 11	17 67 10	17 67 10	17 67 10	17 67 10	17 67 10	17 67 09	17 67 09	17 67 09	17 67 08	17 67 08	17 67 08	17 67 07	17 67 06	17 67 05	17 67 05	17 67 04	17 67 03	17 67 03	17 67 03	17 67 02
女はうも―女はら	おかしき―をかしき	いせのうみ―いせの〔海〕	つまをと―つまおと	なと―ナシ	あはせ給―ナシ	はんしきてうに―はむしきてうに	しらへ給ふ―しらせ給	御中―中	つゝみ給はし―つゝみ給て	かくも―ナシ	さたむめりしか―さたむめれ	其中納言も―この中納言も	なん―か	うること―こと	わたり―わたりは	つゝましけにて―ナシ	ものをと―物をとて	給しか―給しかと	とりよせさせて―、〔ト〕りよせて	さうの御こと―さうのこと	さしいらへ―さしらへ	おほつかなくて―おほつ〔か〕なくて

17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17
 69 69 68 68 68 68 68 68 68 68 68 67 67 67 67 67 67 67
 01 01 13 13 13 12 11 11 11 09 07 06 05 03 02 01 14 14
 ふた心―ふた所
 おはします―をはします
 なを―ナシ
 おまへをは―御まへをは
 さいはひ人―さいはる人
 御ありさま―御あたり
 所―年ころ
 おほして―おほし
 御こと、も―御事とも
 三四日―二三日
 いましつるそとよと―いましつるそと
 わたり給て―わたりて
 とも―ナシ
 いきほひ―いきをひ
 おと、―をと、
 いつれとなく―いつれともなく
 おはさうする―をはさうする
 けり―ける
 なけなる―なき―け―なる
 むかへ―御むかへ
 にくけれや―〔に〕くけれや
 たちまじる―〔たち〕まじる
 かすかなる―かす―か―なる

17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17
 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69 69
 12 12 11 11 10 10 09 08 08 08 08 07 06 05 05 04 03 02 01
 身のおほえ―物
 こもりぬなん―こもりなん
 いと、おほえ給―いとおもふ―ほえ―給
 また御覧し―又―また―御らんし
 所くにて―所く―にてもこ、にても
 又く―又
 いたく―いたう
 きさいの宮―きさいの宮
 ものくしくも―物くしくても
 給はさりつるを―さりつるを
 おり―をり
 いつこにもく―いつくにもく
 聞え給ける―きこしめしおとろきて御とふらひと
 も人もきこえける
 中納言君は―中納言の君は
 おほしはく―におほしはくにも
 いかにをはせん―いかにせん
 えまかてたまはて―えまうてたまはて
 しのひてそ―しのひて
 さるは―ナシ
 女二の宮―女宮
 いとなみ―ナシ
 みかとの―た、みかとの

17 70 09	17 70 09	17 70 08	17 70 08	17 70 07	17 70 07	17 70 06	17 70 05		17 70 05	17 70 04	17 70 04	17 70 04	17 70 03	17 70 03	17 70 02	17 70 01	17 70 01	17 69 14	17 69 14	17 69 13	17 69 13
めてたくーめてたし	る	ひきつくろひ給てーひきつくろひて	おりてたうのはいし給ーおもてたふのはいし給へ	御したかさねーナシ	おとろきーをとろき	程なりければーほとに成けり	くるしくーくるしう	ありき給てーありーきー給て	かへ	右のおほいとー右大殿	右大将ー左大将	なおしものとかーなをし物とか	なけかるーなけかるへ	いとおしくーいとをしく	おとこかたもーおとーかたにも	まいりそめーまいり	かきりなしやーかきりなし	すらうーす両	つくも所ーつくもところさへ所	しもそーしもこそ	おほしいそけはーおほしいそきて
17 71 08	17 71 07	17 71 06	17 71 06	17 71 05	17 71 05	17 71 03	17 71 03	17 71 02	17 71 01	17 71 01	17 70 14	17 70 14	17 70 13	17 70 12	17 70 12	17 70 11	17 70 11	17 70 11	17 70 09	17 70 09	
かさねにてーかさねて	三十一廿	五てのせにーかゆらてのにとに	五日のよー五日のよは	御うふやしなひー御うひやしなぬ	おはしませはーをはしませは	よろこひにそへてうれしくおほすーナシ	いとーナシ	給へるをー給へりけるを	もてなしーもーてなし	おほしおこりてーおほしをこりて	をとるへくもーおとるへう	との給ーと（へ）給	また事はてぬにーナシ	さはかしきーもとかしき	をとらすーおとらす	六条の院ー六条院	まゝにとてーまゝ、にて	右大臣殿ー左大臣殿	たゆたひ給めるーたゆたふめる	ろく給ふあるしの所にとーろく給あるところに	つかさのーこよひ官の人に

手習

— 56 —

20 03 14	20 03 14	20 03 14	20 03 13	20 03 11	20 03 09	20 03 09	20 03 08	20 03 07	20 03 07	20 03 06	20 03 05	20 03 05	20 03 03	20 03 02	20 03 01	20 02 13	20 02 13	20 02 13	20 02 12	20 02 10	20 02 10	
さかしく―さかしう	今のはかりにて―いまはかり	すゑつ、―すゑ	あさましう―あさましく	ひきゆひて―ひきゆいて	いたうも―いたくも	あまくたれるを―あまくたるを	思ふも―思	たて、は―、「ヲ」きては	いつくに―いつこに	なとも―も	いかて―いかてか	思つ、―思て	ありしたより―もとより	ゐていく―ゐてし行	なをありけりと―ありけりとは	といかて―とはいかて	ない給―なき給	おきな―をきな	なく成給て―なくなり給て	いみしく―いみしう	むこにして―こにして	むすめの君の―むすめの君

20 05 13	20 05 13	20 05 12	20 05 12	20 05 11	20 05 10	20 05 10	20 05 07	20 04 10	20 04 09	20 04 09	20 04 08	20 04 08	20 04 08	20 04 07	20 04 07	20 04 06	20 04 05	20 04 03	20 04 03	20 04 02	20 04 02
すみはしめたりける也―すみはしめたるなりけり	夜と、もに―よと、もに	みいて、しかな―みいて、しかなと	つれくも―つれくも	あやしき心ちしなから―あやしなから	水のをとも―みつのおとも	せむさいも―せんさいなども	おかしく―をかしう	けしきも―けはひ	あはれなり―あはれなるに	門田の―とたの	をとも―をとなども	おかしく―をかし	ことなども―事なんとも	いにしゑ―いにしへ	思し―思はて、し	をや―おや	めのと―めのとの	いつくに―いつこにか	いかてか―いかてかは	おなし心―をなしこ、ろ	みなれたりし―みたれたりし

20 07 11	20 07 10	20 07 10	20 07 09	20 07 09	20 07 08	20 06 12	20 06 11	20 06 10	20 06 08	20 06 07	20 06 05	20 06 04	20 06 04	20 06 04	20 06 03	20 06 03	20 06 02	20 06 02	20 06 02	20 06 01	20 05 14
したひまとはさるゝ、	うら山しうゝうらやましく	をこたりつゝ、なんゝをこたりつゝ、	思給へられぬおりなきをゝ思給へわすれぬを	ことゝもゝ事も	思給ふるとゝ思給へるなど	御もとにゝもとは	物し給けるゝおはしけるか	ゆへあるゝゆへあるへき	宮ことりにゝ、たるはゝ宮ことりにゝ、たること	いひわけたりけるゝいひわきたる	思やりゝ思やりの	いみしくゝいみしう	きかれゝきこえ	たれにもゝゝたれゝゝにも	みしわたりにゝみしあたりに	きかよひけるゝかよひける	宮つかへゝ宮つかえ	むまこゝまこ	それらゝゝそれか	つねの人にてはゝたかへのてにて	おりゝゝはゝ折々

20 08 14	20 08 14	20 08 13	20 08 12	20 08 11	20 08 11	20 08 10	20 08 10	20 08 09	20 08 08	20 08 07	20 08 05	20 08 04	20 08 04	20 08 03	20 08 02	20 07 14	20 07 14	20 07 14	20 07 13	20 07 12	
つかけてそゝつかけて	いかにもいかにゝゝいかにゝゝ	御あはひゝ御よはひ	し侍つるにゝし侍に	おはしたるゝおはしましたる	おかしきゝをかしき	こはゝゝしうゝこはゝゝしく	あやしうもゝあやしくも	たてまつりたれはゝたてまつりて	やゝあさやきたるにや	あさやきたるにはかまもひはた色にならひたるに	しいてつへしゝしいてすゝへし	恋しのふ心ゝ恋しのふる心	なと忘かたみをたにゝなとかわすれかたみをたに	御心はへなとのゝ心はえなとの	とめられてゝとゝめて	思給へらるゝゝ思給へしらるゝ、	をろかならずゝおろかならず	給はさりけるとゝ給はさりけりと	御心はへもゝ御こゝろはえも	御ものまねひになむゝ御ものまなひなん	給へるとゝ給と

20 09 12	20 09 11	20 09 11	20 09 10	20 09 10	20 09 10	20 09 10	20 09 10	20 09 09	20 09 09	20 09 09	20 09 09	20 09 08	20 09 06	20 09 06	20 09 05	20 09 05	20 09 05	20 09 02	20 09 01	20 09 01	20 09 01
あけ暮の―あけくれ	程―ナシ	なくさめかね給めりし―さめたまふめりし	また―いまた	をとり―おとり	こよなう―こよなく	いと―ナシ	むかし人は―昔の人は	みせたらは―みせたらはと	おもひいて、―思て	み給へりける―みたてまつりて	給へる―給へりつる	給へる―給へりつる	まさき―さはき	つゐてに―ついでに	ことゝも、―事とも	あはれなりし―あはれなる	つかうまつりなれにし―つかうまつりなれにし	まに―まゝに	あま君―あま君の	んと	さやうのすちは―さやうの事すちは
20 39 06	20 39 06	20 39 03	20 39 03	20 39 02	20 39 02	20 39 02	20 39 01	20 39 01	20 39 01	20 39 01	20 38 13	20 38 13	20 38 13	20 38 13	20 38 13	20 10 03	20 10 03	20 10 02	20 10 02	20 09 14	20 09 14
心やすう―心やすく	なり給にたる―なり給へたる	なと―ナシ	あまなりとも―あまりとも	かくれなかる―かくれなる	そむきにける―そむきける	物えんしして―もえんしして	もしは―また	かくれにたる―うせにたる	行ゑ―ゆくへ	人―人も	物くるはしき―物くるをしき	つゝ、みもあへす―つゝ、みもあへす	れは	おしく―をしう	、〔ク〕やしうかなしければ―かなしくやしけれは	なににほふらん―なにしをふらむ	おりて―、〔ヲ〕りて	やみぬ―やみ	うちつけに―うちとけに	おかしかりつと―をしかりつと	おかしくて―をかしくて

20 43 01	20 42 13	20 42 13	20 42 12	20 42 12	20 42 11	20 42 10	20 42 10	20 42 10	20 42 09	20 42 08	20 42 08	20 42 08	20 42 07	20 42 07	20 42 07	20 39 08	20 39 08	20 39 08	20 39 07	20 39 07
さうそく—御さうそく	その御はてのわさ—そのはてのわさ	すへたてまつり—すゑたてまつり	御おとうと—御おと、	給にき—給て	つかうまつりて—つかふまつりて	右大將殿の—大將殿の	思給へしを—思給しを	か、つらひて—わつらひて	み、とまれるに—み、とまるに	あひなく—あひなく	わかおやの名と—我やのなと	給はさめり—給はさんめり	をとつれ—おとつれ	ひさしう—いとひさしく	侍に—侍めるに	くみゆる	こ、ろほそくうしろめたき—うしろめたく心ほそ	行すゑ—ゆくすゑ	今ひとつ—いまひとへ	かやうにまいりくるに—かやうにもまいりくるを

20 43 01 給てん—給てたまひてむ
20 43 02 いそきせさせ—いそかせせ

〔付記1〕 前号に掲載した翻刻では、組版と丁付けに不備があり、各丁の「オ」と「ウ」が逆であり、版面も表丁と裏丁が逆になつてしまつてゐる。翻刻のまま見れば資料に錯簡が生じてゐるかのようであるが、実際の断簡には脱葉はあるものの順序は正確である。翻刻に対応する『源氏物語大成』の頁数・行数の表記は正確であるため、参照の際はそのことを念頭に置いていただきたい。確認不足ゆえに本来の断簡の状態とは異なるかたちで掲載してしまつたことをお詫び申し上げます。

〔付記2〕 本研究は、国文学研究資料館共同研究「相愛大学「春曙文庫」に関する研究—書物と人」および JSPS 科研費（課題番号：22KJ2183）および JSPS 科研費（課題番号：22KJ2185）の助成を受けた研究成果の一部である。

（いいだ・みか 本学博士後期課程・日本学術振興会特別研究員／かわぶち・すすか 本学博士後期課程・日本学術振興会特別研究員）